

第 43 回日本病院薬剤師会近畿学術大会（2022 年 1 月 29 日～30 日）

「免疫チェックポイント阻害薬使用患者の HbA1c 変動調査」

兵庫県立丹波医療センター 薬剤部

○植村 有加里¹、福山 裕季子¹、桂田 雅大²、松本 敏明¹、柴田 直子¹、
瀬川 和子¹、横田 聖子¹

¹兵庫県立丹波医療センター薬剤部、²兵庫県立丹波医療センター内科

発表形式：ポスター発表

演題分類：08 有害事象・副作用

【目的】免疫チェックポイント阻害剤（以下 ICI）の特徴的な副作用として免疫関連有害事象（以下 irAE）があり、内分泌系の副作用として 1 型糖尿病が報告されている。今回 ICI 単剤使用時の HbA1c 変動について調査した。

【方法】2018 年 7 月 1 日から 2021 年 6 月 30 日までに当センターで ICI 単剤投与された患者を対象に、HbA1c の変動を後方視的に調査した。副腎皮質ホルモンを含むレジメンや副腎皮質ホルモンの内服歴がある症例、HbA1c の測定値が 1 点のみの症例は除外した。

【結果】対象期間に副腎皮質ホルモンの内服が無く、ICI 単剤投与した患者は 26 例であり、そのうち投与前後に HbA1c 値の測定がある患者は 8 例であった。8 例とも男性であり、糖尿病既往歴がある症例が 3 例、既往歴がない症例が 5 例、年齢の中央値は 77.5 歳（71.25 歳 -80.5 歳）であった。

8 例のうち、HbA1c が上昇した症例は 5 例であった。投与 1 か月後から上昇した症例が 1 例、2 か月後から上昇した症例が 2 例、3 か月後から上昇した症例が 1 例、4 か月後から上昇した症例が 1 例であった。その他 3 症例のうち 1 症例は HbA1c に変化がなく、2 症例は減少した。また、ICI 単剤投与した患者 26 例のうち定期的に HbA1c を測定していない症例は、内科 20 例中 13 例、外科 4 例中 3 例、泌尿器科 2 例中 2 例であった。

【考察】irAE の内分泌系副作用である 1 型糖尿病は、発症から重症化までの期間の短い劇症 1 型糖尿病の経過をたどることがあり、注意深く経過を追うことが必要である。今回、8 症例中 HbA1c 上昇が見られた症例が 5 例あったことから、HbA1c 上昇の頻度は高いと考えられるが、ICI 使用時定期的に HbA1c 測定がされていない症例もあった。

【結論】調査対象 8 例の半数以上に HbA1c の上昇が見られたが、ICI の投与開始前及び投与期間中に HbA1c 値を測定している割合は、半数を下回っていた。重大な副作用である 1 型糖尿病早期発見のため、HbA1c 測定率の改善を図っていく必要がある。

(768 字)